

授業科目名	病因病態学 (Pathology)		
対象学年	医学科2年生	単位	5単位
科目責任者	やすい わたる 安井 弥	所属	分子病理学 (内線 5145)
		メール	wyasui@hiroshima-u.ac.jp
	たけしま ゆきお 武島 幸男	所属	病理学 (内線 5152)
		メール	ykotake@hiroshima-u.ac.jp
授業方法	<p>講義形式：チュートリアル方式（ディスカッション・ディベート・学生の発表・レポート提出）、講義、顕微鏡観察実習・レポート提出 使用する視聴覚教材の種類：パワーポイント・病理組織プレパラート等</p> <p>チュートリアル方式を主体とするが、モデル・コア・カリキュラムに添って必須ポイントは講義する。チュートリアルと講義・実習は連動して進める。代表的病態・疾患についてはプレパラートあるいはバーチャルスライドを用いた病理組織実習を行なう。</p>		
概要	<p>疾患の概念・発生機序・診断と治療に関する理解を深めるために、病理形態学的な病変の把握から遺伝子・分子レベルの異常の認識までの基礎的知識と技能を習得する。学生が主人公の学習方法であるチュートリアル方式を主として行うので、自ら勉強する課題を発見し解決する姿勢が重要である。週単位で学習項目が異なるので、それぞれの期間中に理解することが重要であり十分な復習が必要である。</p> <p>一般目標 (G10)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>【細胞傷害】細胞傷害の原因と機序、反応および形態学的変化を理解する。</li> <li>【循環障害】循環障害の成因と病態を理解する。</li> <li>【炎症】炎症の概念とその修復過程を理解する。</li> <li>【遺伝子異常と疾患・発生発達異常】遺伝子・染色体異常と発生発達異常や疾患の発生との関連を理解する。(人体遺伝学で主に受講する。)</li> <li>【腫瘍】腫瘍の概念と発生機構、病態生理や病理形態を理解し、その診断における意義を理解する。</li> <li>【代謝障害】代謝異常と蓄積症によって生じる多様な病態と形態学的変化を理解する。</li> </ol>		
到達目標	<p>細胞傷害・変性と細胞死の多様性、病因と意義を説明できる。 細胞傷害・変性と細胞死の細胞と組織の形態的变化の特徴を説明できる。 ネクローシスとアポトーシスの違いを説明できる。</p> <p>糖質代謝異常の病態を説明できる。 蛋白質・アミノ酸代謝異常の病態を説明できる。 脂質代謝異常の病態を説明できる。 核酸・ヌクレオチド代謝異常の病態を説明できる。 無機質代謝異常の病態を説明できる。</p> <p>虚血、充血、うっ血と血行静止の違いとそれぞれの病因と病態を説明できる。 出血の原因と止血の機構を説明できる。 血栓症の病因と病態を説明できる。 塞栓の種類と経路や塞栓症の病態を説明できる。 梗塞の種類と病態を説明できる。</p> <p>炎症の定義を説明できる。 炎症の分類、組織形態学的変化と経時的変化を説明できる。 アレルギーの4つのタイプを挙げ、代表的疾患の発生機序や形態像を概説できる。 代表的な自己免疫疾患について概説できる。 感染症による炎症性変化を説明できる。 創傷治癒の過程を概説できる。</p>		

	<p>腫瘍の定義を説明できる。  組織の再生と修復や肥大、増生、化生、異形成と退形成を説明できる。  良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを説明できる。  上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍の違いを説明できる。  腫瘍細胞の異型性と多型性を説明できる。  腫瘍と染色体異常の関係を概説できる。  局所における腫瘍の増殖、局所浸潤と転移を説明できる。  腫瘍発生に関わる遺伝的要因と外的因子を概説できる。  がんに関連する遺伝子（がん遺伝子とがん抑制遺伝子）の変化を概説できる。</p> <p>病理診断の目的と意義を説明できる。  病理解剖の目的と意義について説明できる。</p>
講義日程	別紙日程表を参照のこと
出席の取り扱い	<p>①講義、発表会の出席が3分の2以上の出席。  ②すべてのコアタイムの出席。（特別な理由がない限り欠席は認めない。）  ③期日までに各種レポートはすべて提出。</p> <p>上記すべてを満たすことを試験受験資格とする。</p>
評価項目	到達目標の達成度（基本的理解と知識の応用） プレゼンテーション能力
評価法	MCQ形式、記述形式の併用による試験を行う（配点：MCQ形式 20点、記述形式 80点）。 本試験における合格基準は60点とする。
推奨参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 標準病理学（医学書院）</li> <li>2. NEWエッセンシャル病理学第6版（医歯薬出版株式会社）</li> <li>3. ルービン病理学（西村書店）</li> <li>4. シンプル病理学（南江堂）</li> <li>5. 器官病理学（南山堂）</li> <li>6. Robbins: Pathologic Basis of Disease (Saunders)</li> <li>7. Anderson, Kissane: Pathology (Mosby)</li> <li>8. 組織病理アトラス（文光堂）</li> </ol>